

消化器内科

I. スタッフ紹介 役職・氏名・資格・専門領域など

役職：消化器センター内科 主任部長 兼 低侵襲治療センター長
氏名：八隅 秀二郎 「専門領域：消化器内科、特に胆膵領域の診断と治療」
資格：京都大学医学博士
京都大学医学部臨床教授
関西医科大学臨床教授
日本内科学会総合内科専門医・指導医
日本消化器病学会専門医・指導医・評議員・近畿支部評議員
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医・評議員・近畿支部評議員
日本胆道学会指導医
日本膵臓学会指導医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医

役職：消化器センター内科 部長
氏名：福永 豊和 「専門領域：消化器内科、特に肝細胞癌の診断と治療」
資格：日本内科学会総合内科専門医・指導医
日本消化器病学会 専門医・近畿支部評議員
日本消化器内視鏡学会 専門医
日本肝臓学会専門医・指導医
日本超音波医学会専門医・指導医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医

役職：消化器センター内科 副部長
氏名：川口 清隆 「専門領域：消化器内科、特に肝癌の診断と治療」
資格：日本内科学会認定内科医・指導医
日本消化器病学会 専門医
日本肝臓学会 専門医

役職：消化器センター内科 副部長
氏名：栗田 亮 「専門領域：消化器内科、特に胆膵疾患の診断と治療」
資格：日本内科学会認定内科医
日本消化器病学会専門医・近畿支部評議員
日本消化器内視鏡学会専門医・近畿支部評議員
日本胆道学会指導医

役職：消化器センター内科 副部長
氏名：山内 淳嗣 「専門領域：消化器内科、特に消化管疾患の診断と治療」
資格：日本内科学会総合内科専門医
日本内科学会総合内科専門医
日本消化器内視鏡学会専門医

役職：消化器センター内科 医員 (平成31年1月退職)
氏名：工藤 寧 「専門領域：消化器内科、特に胆膵疾患の診断と治療」
資格：日本内科学会総合内科専門医・指導医

日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医

役職： 消化器センター内科 医員
氏名： **東 俊二郎** 「専門領域：消化器内科一般」
資格： 日本内科学会認定内科医
日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本肝臓学会専門医

役職： 消化器センター内科 医員
氏名： **西村 聡** 「専門領域：消化器内科一般」
資格： 日本内科学会認定内科医
日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医

役職： 消化器センター内科 医員
氏名： **渡邊 幸太郎** 「専門領域：消化器内科一般」
資格： 日本内科学会認定内科医
日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医

役職： 消化器センター内科 医員
氏名： **森 義治** 「専門領域：消化器内科一般」
資格： 日本内科学会認定内科医
日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本肝臓学会専門医

役職： 消化器センター内科 医員
氏名： **濱田 健輔** 「専門領域：消化器内科一般、特に炎症性腸疾患（IBD）」
資格： 日本内科学会認定内科医
日本消化器病学会専門医

役職： 消化器センター内科 医員 （平成 31 年 3 月退職）
氏名： **秋山 慎介** 「専門領域：消化器内科一般」
資格： 日本内科学会認定内科医

役職： 消化器センター内科 医員 （平成 31 年 3 月退職）
氏名： **山下 大生** 「専門領域：消化器内科一般」
資格： 日本内科学会認定内科医

役職： 消化器センター内科 シニアレジデント医師
氏名： **尾松 万悠紀** （平成 31 年 3 月退職）
川井 裕弥
澤田 賢治（平成 30 年 4 月着任）
飯森 啓（平成 30 年 4 月着任）
岩野 光佑（平成 30 年 4 月着任）

II. 診療・治療の特徴

【はじめに】

平成 30 年度の消化器センター内科（スタッフ 13 名、レジデント 5 名の合計 18 名）は、年間約 1.4 万件の内視鏡検査を中心に活動しました。

当院では、「断らない医療」をモットーに年間 9,000 台以上救急車で搬送される地域医療に全面的に貢献するように心がけており、吐下血に対する緊急内視鏡だけでなく、膵胆道系および肝疾患に対しても 24 時間体制で対応しています。

特に、癌患者に対しては安心して通院治療を継続できるように、緊急時の受入れ体制は言うまでもなく、在宅を中心に癌と戦っていくための環境づくり（介護保険の申請など地域連携を通じた看護サポート体制作り）も非常に大事なものと考えております。

また、当院は教育機関でもあり、将来幅広く消化器の知識（消化管、炎症性腸疾患、肝臓、胆膵）に対応できる消化器内科専門医を育てる為に、レジデントに対して各手技（US, EGD, CS, 肝生検, RFA, Angio, EUS, ERCP, ダブルバルーン、カプセル内視鏡）をより効率的に習得できるように各専門分野の手技に対してマニュアルを作成し指導するようにしています。今後は、より高い臨床技術を提供するために各種技術習得の教育方法の確立、臨床研究に即したデータベースの構築を軸に臨床を行って行きたいと考えています。具体的な試みとしては ESD の技術を習得するために豚の胃や大腸を用いての実習を年二回行っています。平成 30 年度は地域で内視鏡を頑張っている開業医の先生がたにも実際の ESD がどのように行われるかを体験していただきました。

学会活動としては年間 26 演題（総会 13、地方会 13）を発表し、消化器病学会及び内視鏡学会では会長賞や奨励賞などを 6 つ獲得できました。

また、論文は 10 本（英文 8 本、和文 2 本）掲載されました。

以下に各部門の活動状況の年報を記載します。

【消化管部門】

食道癌、胃癌、大腸癌などの悪性腫瘍、胃ポリープ、大腸ポリープなどの良性腫瘍、胃食道逆流症、胃・十二指腸潰瘍、ヘリコバクター・ピロリ感染症、機能性ディスペプシア、急性腸炎、虚血性腸炎、大腸憩室出血、腸閉塞、便秘症、過敏性腸症候群などの病気を取り扱っています。

内視鏡検査は拡大機能のある内視鏡を使用し、病変の早期発見、正確な診断に努めています。また、鎮静剤、鎮痛剤などを併用し、苦痛の少ない患者さんにやさしい内視鏡検査を心掛けています。平成 30 年度は上部消化管内視鏡検査の総数は 8,436 件、下部消化管内視鏡検査の総数は 3,453 件でした。吐血や下血などの患者さんに対しては、24 時間体制で緊急内視鏡の受け入れを行っており、平成 30 年度の緊急内視鏡の総数は 267 件でした。

大腸憩室出血については、EBL（バンド結紮術）による止血術を積極的に行い、良好な成績を得ています。

粘膜内にとどまっている早期癌に対しては、ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）を行っています。平成 30 年度は食道 ESD が 27 件、胃 ESD が 85 件、大腸 ESD が 39 件でした。

進行癌の患者さんに対しては、手術、化学療法、放射線療法のうち最適な治療法を提案できるよう、消化器外科、放射線科、腫瘍内科と連携を行っています。腫瘍による通過障害で、食事がとれない、腸閉塞になった患者さんには、消化管ステント留置術を行っています。平成 30 年度は食道ステントが 1 件、胃十二指腸ステントが 10 件、大腸ステントが 27 件でした。

○ 小腸

原因不明の消化管出血の患者さんに対しては、小腸内視鏡、カプセル内視鏡を用いて、原因の検索を行っています。平成 30 年度は小腸内視鏡が 16 件、カプセル内視鏡 21 件を施

行しました。平成 24 年からはパテンシーカプセルを導入し、狭窄が疑われるクローン病症例ではカプセル内視鏡を行う前にパテンシーカプセルによる小腸の通過性を確認しております。

小腸癌に対しては手術や化学療法など集学的治療を行っており、また十二指腸乳頭部腫瘍については、内視鏡的切除術（パピレクトミー）を積極的に行っています。

【肝臓部門】

○ 肝癌治療

平成 30 年は年間 38 例に経皮的穿刺治療（経皮的エタノール注入療法（PEIT）、ラジオ波焼灼療法（RFA））を施行しました。適応は原則 Stage 1 では RFA 単独治療を第一選択、それを超えるものについても侵襲度、治療効果、合併症を勘案し肝動脈化学塞栓療法（TACE）を併用しながら 3cm 3 個程度までを適応としています。

腹部超音波検査も通常の B モードのみでは腫瘍の同定が困難な場合（再生結節・dysplastic nodule が多発した状態、TACE・RFA の治療痕近傍に再発した場合など）では RVS（real-time virtual sonography）を使用し US と同断面の CT/MR の MPR 像（仮想 US 像）をリアルタイム表示することで目的の腫瘍を同定します。さらに必要があれば超音波造影剤（ソナゾイド）を使用し、腫瘍の viability の確認には血管相による腫瘍濃染を、存在部位の確認には実質相（Kupffer image）を参照し造影後ただちに RFA 治療を行っています。

転移性肝腫瘍については十分なエビデンスはありませんが、原発巣がコントロールされ 2cm 以下程度のものについてはインフォームドコンセントのうえで RFA を施行しています。MRI で検出された微小な肝転移病変については上記の RVS 併用造影エコーで評価し治療適応を判断しています。

TACE は 69 例に施行しました。抗がん剤は first line にエピルビシン、マイトマイシンの併用、second line にはシスプラチンまたはミリプラチンを使用しています。治療効果不十分な症例では Balloon 閉塞下に腫瘍への薬剤集積性を高める工夫（B-TACE）やエピルビシンを含浸させた抗癌剤溶出性ビーズによる治療（DEB-TACE）も行っています。

TACE の効果が十分でないと判断した場合には全身状態・肝予備能を考慮しリザーバシステムを留置した持続動注化学療法、one shot 動注化学療法や分子標的薬レンバチニブ、ソラフェニブを投与しています。

○ 肝炎治療

肝硬変への進展抑制、肝発がん予防の観点から、慢性肝炎の制御は重要ですが、近年の抗ウイルス療法の急速な進歩によりウイルス性肝炎は完全制御の時代に入りつつあります。当院での B 型肝炎に対する核酸アナログ投与例は 210 例でほぼ全ての症例で非活動性の状態にコントロールされています。若年者では PEG インターフェロンを使用することにより長期的には drug free の状態でコントロール出来るよう治療を試みています。

C 型肝炎治療は 2014 年 9 月以降 DAA（Direct-acting Antiviral Agent）を 2 剤使用するいわゆるインターフェロンフリー治療に急速に移行しました。炎症・線維化の程度、発癌のリスク、腎機能、心機能、HCV 薬剤耐性を考慮し、治療薬の選択・適応を考慮しながら治療しています。不成功となるケースはほとんどありませんが、あらかじめ治療前血清を保存し、薬剤耐性変異の解析を行い次の治療の参考にしています。

これまで genotype 1 型に対してはダクラタスビル（ダクルインザ）/アスナプレビル（スンベプラ）18 例、レジパスビル/ソホスブビル（ハーボニー）153 例、パリタプレビル/オムビタスビル（ヴィキラックス）5 例、エルバスビル（エレルサ）/グラゾプレビル 26 例（グラジナ）、グレカプレビル/ピブレンタスビル（マヴィレット）7 例に使用し 98.1%（205/209）の奏効率となっています。genotype 2 型に対してはソバルディ（ソホスブビル）/リバビリン 43 例、パリタプレビル/オムビタスビル（ヴィキラックス）/リバビリン 1 例、グレカプレビル/ピブレンタスビル（マヴィレット）10 例に使用し 94.4%（51/54）の奏効率となっています。

【胆膵部門】

当院では膵・胆道癌の早期発見を目指し、日々精度の高い画像診断と内視鏡治療に力を入れています。特に大阪北エリアの4医師会(北区、大淀、都島区、東淀川区)と4総合病院(北野、済生中津、大阪市立総合医療センター、淀川キリスト教病院)が中心となって『大阪市北エリア早期膵癌プロジェクト』を展開し、早期膵癌とされ学会等で注目されている膵上皮内癌を、ここ数年で7例発見しております。また、胆膵処置困難症例も多数ご紹介いただいています。症例数は増加傾向で、関西でも指折りの症例数を誇っています(年間 ERCP694 件、EUS-FNA131 件など)。

内視鏡治療としましては、胆管結石治療、慢性膵炎に対するステント治療、乳頭部腫瘍に対する内視鏡的乳頭切除術、胆管狭窄に対するプラスチックステントや金属ステントを用いた胆管ステント治療、感染性膵仮性嚢胞に対する超音波内視鏡下ドレナージ術、超音波内視鏡下胆管・膵管ドレナージ術など、最先端の治療を行っています。

独自の教育システムも構築し、ERCP や EUS-FNA は卒後 3 年目の消化器専攻医になった時点より開始しております。ERCP の胆管挿管については、3-5 年目のレジデントが先発し(各々年間約 100 例前後の ERCP を経験しています)、10 分以上経っても胆管挿管できない場合に上級医に交代するようにし、レジデントの教育に力を入れています。平成 27 年度の胆管挿管目的の初回乳頭症例 190 例において、最終の胆管挿管成功率は 98.9%(188 例/190 例:挿管不能の 2 例の内訳は胃癌術後胆管炎症例の DB-ERCP での胆管挿管不能 1、乳頭部腫瘍の内視鏡切除前検査の胆管挿管不能 1)と高率で、レジデントの胆管挿管率は 1 年目 28.2%、2~3 年目に 56%と、学年が上がるほど挿管率が上昇しております。

悪性疾患につきましては、術前の各種画像診断で臨床病期を決定した後に外科とのカンファレンスで治療方針を決定し、適切な治療を行っています。なかでも切除症例につきましては切除標本の膵管・胆管造影を行い、術前画像と病理組織を対比する検討会を超音波技師・内科・外科・放射線科合同で毎週行っており、その他定期的に若手医師向けに画像診断や内視鏡手技について勉強会を開催し、画像診断・内視鏡手技能力の向上に努めています。当院主導の臨床試験の他、全国で行っている多施設共同臨床試験にも複数参加しています。

若手医師の学会発表のみならず、英語論文作成にも積極的に取り組み、昨年度は英語論文 6 本アクセプトされております。

<平成30年度の診療実績>

ERCP 関連手技 694 件、うち内視鏡的胆道ドレナージ術(EBD) 161 件(EMS 50、PS 111)。経皮的胆道処置(PTCD など)21 件、超音波内視鏡(EUS)検査(観察) 690 件(ラジアル EUS 511、コンベックス EUS 179)、EUS-FNA 131 件、Interventional EUS 24 件

<内視鏡装置>

側視鏡：TJF-Q290V、TJF-260V、TJF-M20、経口胆道鏡：CHF-B260、経皮的胆道鏡：CHF-BP30、超音波内視鏡：GF-UE260、GF-UCT260、超音波内視鏡観測装置：EU-ME2、小腸ダブルバルーン内視鏡：EI-580BT

【炎症性腸疾患(IBD)部門】

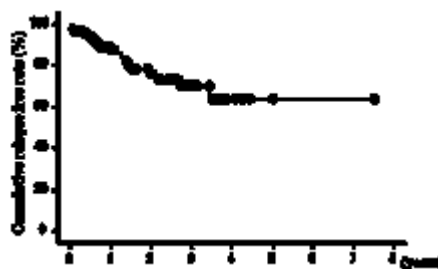
潰瘍性大腸炎、クローン病に最新の治療を行うと共に、全国多施設共同臨床研究にも参加して最新の情報を提供するように努めております。

当院では、軽症から中等症の活動性を有する潰瘍性大腸炎に対し、5-ASA 製剤やステロイド製剤の他、血球成分除去療法を積極的に導入することにより比較的副作用の少ない治療法による寛解導入を目指しております。一方、重症症例に対しては、タクロリムスなどの免疫抑制剤や TNF- α 抗体製剤などの治療法を用い、大腸全摘術を回避するよう努めております。生物学的製剤の登場により、IBD 患者の予後、QOL は大幅に改善しましたが、その一方で難治症例の出現や医療費の高騰など様々な問題が挙がっております。そこで既存の治療を強化することにより、過度な治療強化を回避し、難治症例の発生を抑えることができ

ないか検討いたしました。まだ後ろ向きの検討ではありますが、軽症または免疫調節剤併用しているメサラジン製剤抵抗の潰瘍性大腸炎患者において、サラゾピリン投与にて高い寛解導入率が認められ、さらに注腸療法や免疫抑制剤から離脱することが可能でした (11th Congress of ECCO, Amsterdam にて発表)。今後も新規治療薬だけでなく既存の治療薬をうまく使いこなすことで、患者さんだけでなく社会に貢献できるよう努める所存です。

クローン病については日本独特の厳格な栄養療法ではなく、ステロイドの他、免疫抑制剤や抗 TNF- α 抗体製剤を積極的に用い、できる限り日常生活を続けながら外来で治療できる体制をとっています。

最近の国内外の報告によると、炎症性腸疾患の臨床症状の改善を図るだけでなく、粘膜治癒が非常に重要であると報告されています。当院において粘膜治癒が得られた潰瘍性大腸炎症例の再燃率を検討した結果、粘膜治癒後 1 年、3 年、5 年の寛解維持率は 87.9%、70.2%、63.8% でした (10th Congress of ECCO, Barcelona にて発表)。従来の既報通り粘膜治癒後の長期予後は良好であります、決して無再燃ではありません。そこで‘完全’粘膜治癒を目指した寛解維持療法の構築が必要であると我々は考え、多施設共同臨床研究を立ち上げ模索検討していく所存です。



Ⅲ. 研究

① 主催研究会

第 8 回 大阪胆膵内視鏡ライブ (2019/3/2; 北野病院 きたのホール)

学会

- 1 森山一郎、津田喬之、増田大介、有坂好史、吉田太之、根引浩子、遠藤文司、伊藤嵩志、八隅秀二郎、河本博文 肉腫による転移性膵腫瘍—多施設共同研究—
第 104 回日本消化器病学会総会 一般演題 (口演) 2018/4/21 (東京)
- 2 西村 聡、山内淳嗣、渡邊幸太郎、八隅秀二郎 当院における非静脈瘤性上部消化管出血に対する内視鏡的止血術の現状と止血困難例についての検討 第 95 回日本消化器内視鏡学会総会ポスター 2018/5/10 (東京)
- 3 渡邊幸太郎、山内淳嗣、西村 聡、八隅秀二郎 食道胃接合部における 表在 Barrett 食道腺癌と胃噴門部腺癌の臨床的特徴に関する比較検討
第 95 回日本消化器内視鏡学会総会ポスター 2018/5/10 (東京)
- 4 山内淳嗣、河野孝一郎、濱田晃市 糸付きクリップ牽引法による食道 ESD についての検討第 95 回日本消化器内視鏡学会総会 一般演題 (口演) 2018/5/11 (東京)
- 5 栗田 亮、工藤 寧、宇座徳光 切除不能悪性肝門部領域胆管狭窄に対するチューブステント留置法の成績 第 95 回日本消化器内視鏡学会総会 ワークショップ 2018/5/11 (東京)
- 6 濱田晃市、山内淳嗣、新井 憂、増田重人、小嶋寛子、正木幸作、荒木康宏、伏見洋子、河野玲子、加藤隆夫、西 勝久、八隅秀二郎 全身麻酔による食道 ESD の治療成績に関する検討 第 95 回日本消化器内視鏡学会総会 一般演題 (口演) 2018/5/11 (東京)
- 7 吉本有希子、小松茅乃、大瀬戸久美子、大林亜衣子、葛城遼平、藤本優里、辻なつき、高原祥子、八隅秀二郎、山内清明 BRCA 変異乳癌に続発的に膵癌を発症した 2 症例の経験 日本人類遺伝学会 第 63 回大会ポスター 2018/10/12 (横浜)
- 8 工藤 寧、東俊二郎、栗田 亮、八隅秀二郎、藤田光一、阿南隆洋、向井秀一、江口

考明、岡田明彦、山崎智朗、根引浩子、澤井勇悟、淺田全範 大阪市北部早期膀胱癌プロジェクトにおける Stage0 および IA 膀胱癌の現況 第 49 回日本膀胱学会大会ポスター 2018/6/29 (和歌山)

- 9 淺田全範、木村佳人、澤井優悟、工藤 寧、栗田 亮、八隅秀二郎、藤田幸一、阿南隆洋、向井秀一、江口孝明、岡田明彦、山崎智朗、根引浩子 大阪早期膀胱癌プロジェクトにおける Stage0 および IA 膀胱癌の診断 第 60 回日本消化器病学会大会ポスター 2018/11/2 (神戸)
- 1 0 秋山慎介、山内淳嗣、西村 聡、渡邊幸太郎、八隅秀二郎 大腸憩室出血に対する EBL の検討第 15 回日本消化管学会総会学術集会 2019/2/1 (佐賀)
- 1 1 濱田健輔、吉野琢哉、飯森 啓、岩野光佑、川井祐弥、澤田賢治、尾松万悠紀、秋山慎介、山下大生、西村 聡、森 義治、渡邊幸太郎、東俊二郎、工藤 寧、山内淳嗣、栗田 亮、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 当院における潰瘍性大腸炎に対する顆粒球除去療法の有効性の検討 第 15 回日本消化管学会総会学術集会 2019/2/1 (佐賀)
- 1 2 西村 聡、山内淳嗣、渡邊幸太郎、八隅秀二郎 当院における出血性胃十二指腸潰瘍に対する内視鏡的止血術の現状と止血不能例についての検討 第 15 回日本消化管学会総会学術集会 パネルディスカッション 2019/2/2 (佐賀)
- 1 3 渡邊幸太郎、山内淳嗣、西村 聡、八隅秀二郎 当院における抗凝固薬服用者の大腸ポリープに対する内視鏡的切除術の後出血に関する検討 第 15 回日本消化管学会総会学術集会 2019/2/2 (佐賀)
- 1 4 東俊二郎、栗田 亮、森 義治、工藤 寧、八隅秀二郎 経皮経肝胆道鏡処置における気管支鏡の有用性 第 100 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会シンポジウム 2018/5/26 (大阪)
- 1 5 森 義治、栗田 亮、東俊二郎、工藤 寧、八隅秀二郎 当院における ERCP の工夫 第 100 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会 ビデオワークショップ 2018/5/26 (大阪)
- 1 6 秋山慎介、山内淳嗣、西村 聡、渡邊幸太郎、八隅秀二郎 日本食道学会拡大内視鏡分類の信頼性についての検討 第 100 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会 シンポジウム 2018/5/26 (大阪)
- 1 7 尾松万悠紀、栗田 亮、飯森 啓、岩野光佑、澤田賢治、川井祐弥、秋山慎介、山下大生、濱田健輔、西村 聡、森 義治、渡邊幸太郎、東俊二郎、工藤 寧、山内淳嗣、川口清隆、福永豊和、八隅秀二郎 腹腔内出血を合併した急性胆嚢炎の 1 例 第 100 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会 2018/5/26 (大阪)
- 1 8 岩野光佑、山川康平、栗田 亮、川井祐弥、川本雄也、尾松万悠紀、秋山慎介、山下大生、藺 誠、西村 聡、森 義治、渡邊幸太郎、東俊二郎、渡辺昌樹、工藤 寧、山内淳嗣、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 十二指腸乳頭部転移による閉塞性黄疸をきたした悪性黒色腫の一例 第 100 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会 2018/5/26 (大阪)
- 1 9 川井祐弥、福永豊和、飯森 啓、岩野光佑、澤田賢治、尾松万悠紀、秋山慎介、山下大生、濱田健輔、西村 聡、森 義治、渡邊幸太郎、東俊二郎、工藤 寧、山内淳嗣、栗田 亮、川口清隆、八隅秀二郎 診断に苦慮した若年女性に発生した肝細胞腺腫の一切除例 日本消化器病学会近畿支部第 109 回例会 2018/9/29 (大阪)
- 2 0 澤田賢治、高井 淳、山田知世、荒木 理、本澤有介、宇座徳光、妹尾 浩、進藤岳郎、桜井孝規、上野山義人、山下幸孝 繰り返す肝障害により急速な線維化を示した肝炎後再生不良性貧血の一例日本消化器病学会近畿支部第 109 回例会 2018/9/29 (大阪)
- 2 1 飯森 啓、福永豊和、岩野光佑、川井祐弥、澤田賢治、尾松万悠紀、秋山慎介、山下大生、濱田健輔、西村 聡、森 義治、渡邊幸太郎、東俊二郎、工藤 寧、山内淳嗣、栗田 亮、川口清隆、八隅秀二郎、瀧内曜子、有馬靖佳 肝機能障害に加えて血球貪食性リンパ組織球症を呈した慢性活動性 EB ウイルス感染症の一例

日本消化器病学会近畿支部第 109 回例会 2018/9/29 (大阪)

- 2 2 岩野光佑、栗田 亮、飯森 啓、川井祐弥、澤田賢治、尾松万悠紀、秋山慎介、山下大生、濱田健輔、西村 聡、森 義治、渡邊幸太郎、東俊二郎、工藤 寧、山内淳嗣、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 遺伝性乳がん卵巣がん症候群に発生した膵癌の一例 日本消化器病学会 近畿支部第 109 回例会 2018/9/29 (大阪)
- 2 3 工藤 寧、森 義治、東俊二郎、栗田 亮、八隅秀二郎 当院における超音波内視鏡ガイド下膵管ドレナージの治療成績の検討日本超音波医学会第 45 回関西地方会学術集会 2018/10/20 (神戸)
- 2 4 森本 幸、大町安耶子、福永豊和、渡辺昌樹、尾松万悠紀 診断に苦慮した肝炎症性偽腫瘍の一例日本超音波医学会第 45 回関西地方会学術集会 2018/10/20 (神戸)
- 2 5 西村 聡、山内淳嗣、渡邊幸太郎、八隅秀二郎 *Helicobacter pylori* 除菌後胃癌におけるリスク因子についての検討 第 101 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会パネルディスカッション 2018/11/10 (大阪)
- 2 6 尾松万悠紀、栗田 亮、飯森 啓、岩野光佑、川井祐弥、澤田賢治、秋山慎介、山下大生、濱田健輔、森 義治、渡邊幸太郎、西村 聡、東俊二郎、工藤 寧、山内淳嗣、川口清隆、福永豊和、八隅秀二郎 術前に診断困難であった副膵管由来の I-PMC の一例 第 101 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会 2018/11/10 (大阪)
- 2 7 岩野光佑、山川康平、飯森 啓、川井祐弥、澤田賢治、尾松万悠紀、秋山慎介、山下大生、濱田健輔、西村 聡、森 義治、渡邊幸太郎、東俊二郎、工藤 寧、山内淳嗣、栗田 亮、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 保存的に治療しえた急性上腸間膜動脈血栓塞栓症に続発した虚血性小腸狭窄の一例 第 101 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会 2018/11/10 (大阪)
- 2 8 川井祐弥、岩野光佑、森 義治、栗田 亮、飯森 啓、澤田賢治、尾松万悠紀、秋山慎介、山下大生、濱田健輔、西村 聡、渡邊幸太郎、東俊二郎、工藤 寧、山内淳嗣、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 膵上皮内癌術後の残膵に微小浸潤癌を発症し残膵全摘を施行した一切除例 日本消化器病学会近畿支部第 110 回例会 2019/2/23 (京都)
- 2 9 澤田賢治、飯森 啓、岩野光佑、川井祐弥、尾松万悠紀、秋山慎介、山下大生、濱田健輔、西村 聡、森 義治、渡邊 幸太郎、東俊二郎、山内淳嗣、栗田 亮、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 播種性骨髄癌腫症を発症した早期胃癌の一例 日本消化器病学会近畿支部第 110 回例会 2019/2/23 (京都)
- 3 0 飯森 啓、栗田 亮、森 義治、東俊二郎、岩野光佑、川井祐弥、澤田賢治、尾松万悠紀、秋山慎介、山下大生、濱田健輔、西村 聡、渡邊幸太郎、工藤 寧、山内淳嗣、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 診断に苦慮した膵腺房細胞癌の一例 日本消化器病学会近畿支部 第 110 回例会 2019/2/23 (京都)
- 3 1 岩野光佑、栗田 亮、飯森 啓、川井祐弥、澤田賢治、尾松万悠紀、秋山慎介、山下大生、濱田健輔、西村 聡、森 義治、渡邊幸太郎、東俊二郎、工藤 寧、山内淳嗣、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 右結腸動脈瘤破裂に対して保存的加療後に結腸切除術を施行され、病理学的に Segmentalarterialmediolysis と診断された一例 日本消化器病学会近畿支部第 110 回例会 2019/2/23 (京都)
- 3 2 飯森 啓、川井祐弥、澤田賢治、尾松万悠紀、秋山慎介、山下大生、濱田健輔、森 義治、西村 聡、渡邊幸太郎、東俊二郎、工藤 寧、山内淳嗣、栗田 亮、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 肝機能障害に血球貪食性リンパ組織球症を呈した慢性活動性 EB ウイルス感染症の一例 第 41 回京大消化器内科関連病院症例検討会 2019/10/27 (京都)
- 3 3 東俊二郎ラジアル走査式の基本 第 2 6 回 O.K.勉強会症例提示 2018/6/13 (大阪)
- 3 4 森 義治コンベックス走査式の基本第 2 6 回 O.K.勉強会症例提示 2018/6/13 (大阪)
- 3 5 山下大生 術前に膵上皮内癌を疑い膵体尾部切除を行った一例 大阪早期膵癌発

- 見プロジェクト勉強会症例検討 2018/7/13 (大阪)
- 3 6 森 義治 テーマ: 10mm 以下の膵腫瘍に対する FNA の診断能及び工夫 (膵液細胞診とのすみ分けも含めて) 第 11 回大阪 FNAClub レクチャー2018/8/11 (大阪)
- 3 7 山下大生、栗田 亮、森 義治、東俊二郎、工藤 寧、内田洋一郎、寺嶋宏明、松崎直美、八隅秀二郎 胆管癌と鑑別困難であった濾胞性胆管炎の一例 第 69 回日本消化器画像診断研究会 2018/8/31 (石川)
- 3 8 濱田健輔、飯森 啓、岩野光佑、川井祐弥、澤田賢治、尾松万悠紀、秋山慎介、山下大生、森 義治、西村 聡、渡邊幸太郎、東俊二郎、工藤 寧、山内淳嗣、栗田 亮、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎、松崎直美、弓場吉哲「MCN との鑑別が困難であった膵体部癌の 1 例」第 67 回近畿膵疾患談話会 2018/10/13 (大阪)
- 3 9 山内淳嗣 大腸癌の内視鏡診断と治療 K2-Net 2018/10/11 (大阪)
- 4 0 飯森 啓、岩野光佑、川井祐弥、澤田賢治、尾松万悠紀、秋山慎介、山下大生、濱田健輔、森 義治、西村 聡、渡邊幸太郎、東俊二郎、工藤 寧、山内淳嗣、栗田亮、福永豊和、川口清隆、八隅秀二郎 肝機能障害に血球貪食性リンパ組織球症を呈した慢活動性 EB ウイルス感染症の一例 第 41 回京大消化器内科関連病院症例検討会 2018/10/27 (京都)
- 4 1 秋山慎介 GERD 診療の最新話題 第 22 回近畿超音波内視鏡研究会クリニカルカンファレンス 2018/11/17 (大阪)
- 4 2 岩野光佑 保存的に治療しえた急性腸間膜動脈血栓塞栓症に続発した虚血性小腸狭窄の一例 第 3 回京都大学消化器内科学術交流会・同門会 2019/3/23 (京都)
- 4 3 岩野光佑 第 18 回阪神膵臓外科研究会症例検討 2019/2/22 (大阪)
- 4 4 栗田 亮 第 24 回 MH 関西胆膵画像診断研究勉強会レクチャー2019/3/9 (大阪)
- 4 5 岩野光佑 術前診断が困難であった 膵頭部嚢胞性病変の一例 第 24 回 MH 関西胆膵画像診断研究勉強会症例提示 2019/3/9 (大阪)
- 4 6 栗田 亮 第 13 回東京 FNA クラブ特別講演 2018/6/20 (東京)
- 4 7 八隅秀二郎 大阪早期膵癌プロジェクト現状について 大阪早期膵癌プロジェクト-大阪市 北エリア-勉強会講演 2018/5/21 (大阪)
- 4 8 八隅秀二郎 IBD のおける栄養療法～半消化態栄養剤の位置づけ～ 第 2 6 回 O.K.勉強会 講演 2018/6/13 (大阪)
- 4 9 八隅秀二郎 膵がん早期発見への取り組み～早期膵がんプロジェクトより～ 第 1 回きたの パートナーズクラブ講演 2018/9/22 (大阪)
- 5 0 栗田 亮 胆膵 E R C P コース 第 101 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会ハンズオンセミナー 2018/11/10 (大阪)
- 5 1 福永豊和 消化器癌 s t a g e I での診断・治療を目指して-肝炎・肝癌、早期膵癌、早期胃癌に対する当院での取り組み 北区消化器勉強会特別講演 2018/12/8 (大阪)
- 5 2 福永豊和 当院におけるレンビマ (レンバチニブ) の使用状況 TKI に関する薬薬連携を考える会講演 2019/3/12 (大阪)
- 5 3 八隅秀二郎 消化器②医学生・研修医の日本内科学会ことはじめ 2 0 1 8 京都長 2018/4/14 (京都)
- 5 4 八隅秀二郎 ポスター70 胆道・ドレナージ 2 第 95 回日本消化器内視鏡学会総座長 2018/5/12 (東京)
- 5 5 八隅秀二郎 進化する胆膵内視鏡の診断と治療 第 100 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会座長 2018/5/26 (大阪)
- 5 6 栗田 亮 肝胆膵 第 100 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会座長 2018/5/26 (大阪)
- 5 7 八隅秀二郎 第 2 6 回 O.K.勉強会司会 2018/6/13 (大阪)
- 5 8 八隅秀二郎 大阪早期膵癌発見プロジェクト勉強会座長 2018/7/13 (大阪)
- 5 9 八隅秀二郎 ポスター: 膵 VII 第 69 回日本消化器画像診断研究会座長

- 2018/9/1 (石川)
- 6 0 八隅秀二郎 第 67 回近畿膵疾患談話会座長 2018/10/13 (大阪)
- 6 1 八隅秀二郎 肝胆膵の分子標的治療セミナー座長 2018/9/28 (大阪)
- 6 2 八隅秀二郎 大腸癌の内視鏡診断と治療 K2-Net 座長 2018/10/11 (大阪)
- 6 3 八隅秀二郎 日本超音波医学会第 45 回関西地方会学術集会座長
2018/10/2 (神戸)
- 6 4 八隅秀二郎 膵臓(内視鏡治療/その他の治療(化学療法、放射線治療などを含む))
第 60 回日本消化器病学会大会座長 2018/11/3 (神戸)
- 6 5 栗田 亮 第 23 回MH関西胆膵画像診断勉強会 司会 2018/12/1 (大阪)
- 6 6 山内淳嗣 YoungEndoscopistSession12 食道 2 第 101 回日本消化器内視鏡学会
近畿支部例会座長 2018/11/10 (大阪)
- 6 7 栗田 亮 第 22 回近畿超音波内視鏡研究会クリニカルカンファレンス司会
2018/11/17 (大阪)
- 6 8 八隅秀二郎 消化器 3 第 222 回日本内科学会近畿地方会座長
2018/12/15 (大阪)
- 6 9 東俊二郎 Freshman Session7 膵臓日本消化器病学会近畿支部第 110 回例会座長
2019/2/23 (京都)
- 7 0 八隅秀二郎 肝胆膵疾患の内視鏡&薬物療法の進歩
第 8 回肝疾患治療研究会座長 2018/12/11 (大阪)

論文

- 1 Yamakawa K, Kurita A, Azuma S, Kudo Y, Yazumi S. Metastatic melanoma in the ampulla of Vater. *Gastrointestinal Endoscopy* 87(4)1156-1158 2018 Apr
- 2 S Azuma, A Kurita, S Yazumi Hepatobiliary and Pancreatic: Burkitt lymphoma mimicking IgG4-related disease *Gastroenterology and Hepatology* 33(10)1694 2018 Oct
- 3 Ito T, Takada R, Omoto S, Tsuda M, Masuda D, Kato H, Matsumoto T, Moriyama I, Okabe Y, Shiomi H, Ishida E, Hatamaru K, Hashimoto S, Tanaka K, Kawamoto H, Yanagisawa A, Katayama T, Yazumi S; Biliopancreatic Study Group. Analysis of Prognostic Factors in Pancreatic Metastases: A Multicenter Retrospective Analysis. *Pancreas* 47(8)1033-1039 2018 Sep
- 4 Koichiro Kawano, Shujiro Yazumi, Reiko Kawano, Katsuhisa Nishi Detection Capability of the Stool Helicobacter pylori Antigen Kit Using Gastric Juice Collected during Esophagogastroduodenoscopy *Chinese Medical Journal* 131(18)2252-2253 2018 Sep
- 5 Mayuki Omatsu, Kohei Yamakawa, Jyunya Taki and Shujiro Yazumi Pyogenic Ventriculitis Secondary to Liver Abscess *Internal Medicine* 1758-18 2019 Jan
- 6 Makoto Sono, Akihisa Fukuda, Hiroshi Seno and Shujiro Yazumi Gastric Cancer from a Hyperplastic Polyp on an Endoscopic Submucosal Dissection Scar *Internal Medicine* 1636-18 2018 Dec
- 7 Akira Kurita, Yasushi Kudo, Kenichi Yoshimura, Tadamasu Takemura, Yoshiharu Mori, Shunjiro Azuma, Makoto Sono, Kohei Yamakawa, Koutarou Watanabe, Satoshi Nishimura, Hiroki Yamashita, Shinsuke Akiyama, Mayuki Omatsu, Shujiro Yazumi Comparison between a rotatable sphincterotome and a conventional sphincterotome for selective bile duct cannulation. *Endoscopy* 2019 Feb
- 8 Shunjiro Azuma, Akira Kurita, Shujiro Yazumi Autoimmune Pancreatitis Exhibiting Pancreatic Duct Wall Thickening *Internal Medicine* 2243-18 2019 Feb

研究課題

- 1 分枝型 IPMN に対する前向き経過観察 (栗田 亮、八隅秀二郎、工藤 寧)
- 2 IgG4 関連疾患における疾患関連遺伝子の解析 (栗田 亮、八隅秀二郎、工藤 寧、東俊二郎、森 義浩、渡辺昌樹、西村 聡、渡邊幸太郎)
- 3 IgG4 関連疾患のステロイド投与における免疫応答に関する網羅的オミックス解析 (栗田 亮、八隅秀二郎、工藤 寧、東 俊二郎、森 義浩、渡辺昌樹、西村 聡、渡邊幸太郎)
- 4 先進医療として施行された大腸 ESD の有効性と安全性と長期予後に関する多施設共同研究 (山内淳嗣、八隅秀二郎、山内淳嗣、河野孝一郎)
- 5 切除不能中下部悪性胆道狭窄に対するカバータイプ・アンカバードタイプメタリックステントの有用性を検討する臨床比較試験 EMS (栗田 亮、八隅秀二郎)
- 6 2型糖尿病患者に対する膵癌発生についての前向き経過観察研究 (栗田 亮)
- 7 家族性膵癌の疾患関連遺伝子に関する解析 (栗田 亮、八隅秀二郎)
- 8 超音波内視鏡下穿刺吸引生検法における側孔付 25G 針の膵内分泌腫瘍の悪性度評価に対する有用性を検討する多施設共同前向き研究 (栗田 亮、工藤 寧、八隅秀二郎)
- 9 超音波内視鏡下穿刺吸引生検法における側孔付 20G 針の胃粘膜下腫瘍の診断に対する有用性を検討する多施設共同前向き研究 (栗田 亮、工藤 寧、八隅秀二郎)
- 10 大腸憩室出血に対する EBL (endoscopic band ligation) の有効性について (山内淳嗣、西村 聡、伊藤崇志、渡邊幸太郎、八隅秀二郎)
- 11 治癒切除不能な RAS 野生型の進行再発大腸がんに対する Cetuximab 併用 mFOLFOX 6 療法の早期腫瘍縮小効果 (Early Tumor Shrinkage; ETS) の検討 ー多施設共同臨床第 II 相試験ー (渡辺昌樹、八隅秀二郎、山内淳嗣、工藤 寧)
- 12 大阪早期膵癌プロジェクト (八隅秀二郎、栗田 亮、工藤 寧、東 俊二郎)
- 13 ERCP 関連偶発症に関する多施設共同前向き観察研究 (八隅秀二郎、工藤 寧、栗田 亮、全 37 施設)
- 14 ERCP 関連手技における膵炎の発症に関わる因子についての検討とその対策 (栗田 亮)
- 15 超音波内視鏡下穿刺吸引生検法における 22G Franseen 針と 20G 側溝付き針による自己免疫性膵炎の病理組織学的検討-多施設共同前向き無作為化比較試験- (栗田 亮、八隅秀二郎、工藤 寧)
- 16 がんと静脈血栓塞栓症の臨床研究：多施設共同前向き登録研究 -Cancer-VTE Registry- (八隅秀二郎、栗田 亮、東 俊二郎、工藤 寧、山内淳嗣、西村 聡、渡邊幸太郎、森 義治、藺 誠、山川康平)
- 17 迅速ウレアーゼ試験における胃粘液検体からのヘリコバクターピロリ検出の検討 (山内淳嗣、八隅秀二郎、川口清隆、福永豊和、吉野琢哉、栗田 亮、工藤 寧、渡辺昌樹、西村 聡、渡邊幸太郎)
- 18 内視鏡的胆管内自己拡張型金属ステント留置後の内視鏡的抜去試行例にていての多施設共同後方視的症例集積研究 (栗田 亮)
- 19 20mm 以下の十二指腸非乳頭部表在性腫瘍に対する Underwater Endoscopic Mucosal Resection (UEMR) の有効性に関する多施設共同観察研究 (八隅秀二郎、山内淳嗣)
- 20 血液中のアミノ酸および代謝物濃度を用いた膵臓がんの新規バイオマーカーの開発に関する臨床研究 (八隅秀二郎)
- 21 早期膵癌における膵液中の miRNA および cell free DNA のバイオマーカーとしての有用性の検討 (栗田 亮、山下大生)
- 22 直接作用型経口抗凝固薬内服者における内視鏡的粘膜下層剥離術後出血の薬理的予測因子の探索的研究 (八隅秀二郎、山内淳嗣)